

中高年男性の働き方の未来

小島 明子 著



●236ページ
●金融財政事情研究会(1980円)

「人生にセカンドはない」

現在の中高年社員が新入社員だった頃は、新卒後に入社した企業などを定年まで勤めあげ、定年退職後は悠々自適な年金生活を送るといった人生プランを当たり前のように想定し、いまに至るまで一生懸命働いてきた人は多いのではないだろうか。

2021年4月には、改正高

年齢者雇用安定法が施行され、企業側は従業員に対する70歳までの雇用確保措置が努力義務となった。しかし、それを見越して、一部の大企業では、好業績であるにもかかわらず、中高年社員に対して早期希望退職者を募っていた。

さらに、新型コロナウイルス感染症に伴い働き方や産業構造も変化しつつある。今後は、想定していない変化が起こることを考慮し、中高年以降のキャリアを考えなければならぬ時代である。

現在、国内では、中高年の正社員および管理職の多くが男性で占められている。そこで本書では、中高年男性がより活躍できる社会づくりに向けて、中高年男性の方々、中高年男性の働き方への関心を持つ企業、政策担当者らが前向きに実践していくための施策の提言を行っている。

第1章では、中高年男性を取り巻く働き方の現状を整理し、第2章では、日本総合研究所が実施した高学歴中高年男性の調査結果を中心に、中高年男性をめぐる働き方の課題について述べている。

その中では、多くの高学歴中高年男性は、労働価値観のうち、内的報酬欲求が高い(＝やりがいのある仕事をしたい)ことが明らかになっている。

第3章では、筆者が再就職支援団体などに取材を行い、現場での事例を盛り込んでいる。事務職への再就職を希望する男性は多いが、「1つの事務職の採用募集に100人が応募」というのが現実である。

第4章では、企業が中高年男性を生かすための方法論として、企業で行うべき施策について、第5章では、中高年男性の活躍推進を通じた日本社会の活性化を目指し、筆者が長年にわたる調査や現場での活動を通じて得られた九

つの提言をまとめている。

キャリアとは、働き方のことだけでなく、私生活を含め、人生全般のことを指している。本書においても、働き方だけではなく、日本総合研究所の調査結果に基づき、高学歴中高年男性の私生活(食生活、友人との交流、ファッションなど)についても触れている。

長年、中高年男性の多くは、会社のため、家族のため、と周囲に気遣いながら、自分のことを後回しにして生きてきたのではないだろうか。

本書でインタビューをさせていただいた方の言葉の一つにあるのが「定年後等のセカンドキャリアという言葉で安易に逃げてしまう人もいるが、人生にセカンドはない」である。中高年男性の方々が幸せなキャリアを歩めることを願い、執筆させていただいた1冊である。

創発戦略センター 小島 明子